

令和6年度



YURIKAGO 通信

《3月号》

R7.2.25 東京ゆりかご幼稚園



Blog



Instagram



YouTube

こちらをご覧ください

生活発表会 ～子どもと創る発表会～

生活発表会には大勢の方にお越しいただき、ありがとうございました。子どもたちは、園での生活や遊び、活動を通して築かれた先生や友だちとの信頼を基に、生き生きと表現していました。劇の題材も絵本の通りに行うのではなく、普段から慣れ親しんでいる歌や挨拶、遊びの一場面が加わったり、年中、年長になると自分たちで表現を考えたり、さらにはお話自体も子どもと一緒に作っていくなど、Yurikagoの日常を反映した創造的な取り組みが見られました。

日常の遊びから劇遊びに、そして劇発表へと移行していく中で、子どもたちの主体的な関わりや、「やりたい、演じたい」という前向きな姿勢を維持、発展させながら「子どもと創る発表会」を行うことができました。この経験を通し、子どもたちはさらに大きく成長しました。

年度末の残り少ない日々を充実させ、1人1人が新たな一步を踏み出していけるよう、教職員一同全力で子ども達を見守ってまいります。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



森のステージで劇遊び

私たちの演技どうだったかな？ 舞台袖でも元気に歌っています！

いざ本番！

「子どもの主体性」について考える ～八王子市保育従事者研修会～

1月30日に八王子市主催の保育従事者研修会が行われ、市内の幼稚園、保育園、子ども園の保育者が集い、「子どもの主体性をキーワードに幼児期の学びについて考える」というテーマで研修が行われました。園長も幼稚園を代表して登壇し、Yurikagoの事例を紹介しながら自然の中での保育や、主体的で創造的な遊びを通した学びについて話しました。また、保育園、子ども園の園長と鼎談をする中で、園の形態は違えども日本の幼児教育・保育が「子ども主体」「子ども真ん中」に向かっていることを再確認しました。さらには小学校においても、幼児教育同様に子どもの「主体的、対話的で深い学び」を柱としてカリキュラムが生まれ、保・幼・小の垣根が低くなってきていることを確認しました。

さて、そもそも子ども主体とは何か？ですが、本園では「子どもが遊びや活動において自己決定できること」と捉えています。前号でも紹介しましたが、様々な研究で「好きな遊びや活動に没頭できる」ことが、子どもの意欲や自己肯定感、非認知能力を高めるといことがわかっています。これは決して「好き勝手に、わがままに行動する」という事ではなく、園が子どもの発達に関する方向目標をたてながらも、そのプロセスについては子どもの意思決定や判断を尊重するという事です。例えば、活動の中で直線的にゴールを目指す子もいれば、あれこれ試しながらじっくりとゴールに向かおうとする子もいます。「トライアル アンド エラー」といわれるように、挑戦と失敗を繰り返しながら前進していくことが求められる現代においては、スムーズにゴールを目指すだけではなく、「寄り道、脇道、回り道」を楽しむ中で、多くの発見と学びを得ていくことも重要です。



風船に砂を入れて膨らます実験中！

プリンを並べて… 廃材制作

アトリエハウスで

また、本園ではご承知の通り「豊かな自然」が「子ども主体」を支える大きな要素になっています。「自然は教師 10 人分の教育力がある」と言われますが、常に変化し続ける自然は、一つの答えではなく無数の答えを持ち得ます。関わるたびに発見をし、考えさせられ、新たな探究心と挑戦心が掻き立てられます。いわゆる「固定遊具」が無くとも、そこには無数の遊びが存在しています。私たちが自然を尊重するのは、子どもの豊かな育ちに自然が必要不可欠であると考えからです。



森の中で冒険遊び!



冬の柵田



落ち葉に埋もれて

このように、遊びの中で子どもの主体性が尊重される一方で、幼稚園のカリキュラムには、「課題活動」や「経験させたい活動」があります。一斉的な活動で子どもの主体性はないと思われるかもしれませんが、例えば制作を行うにしても、作り方の方向性はある程度決まっても、その材料や作り方の詳細、表現方法は子どもによって様々です。先日おこなった節分制作なども、お面の材料、表情は様々ですし、投げる豆を作るにしても「どうしたら鬼まで届くか、強く投げられるか、鬼を傷つけないか」などを個々に考えながら紙で豆を作り、事前に投げる練習までしていました。また、行事においても、例えば先日の生活発表会では、互いに意見を出し合いながら道具を作り演じていましたね。



個性豊かな鬼たち



豆も様々



試行錯誤が現れている



このように、子どもの思いや心情をくみ取りながら主体的な関わりを尊重する保育が、子どもの育ちを豊かにし、「生きる力の基礎」を強固にしていきます。これからも、子どもたちとトライアル アンド エラーを楽しみながら「子どもと共に創る保育」を進めていきたいと考えています。